

第5次白岡市男女共同参画プラン 令和5年度報告書の評価・点検

(1) 会議概要

令和6年10月29日(火) 午前10時～11時20分
白岡市役所 4階特別大会議室

(2) 第2回しらおか男女共同参画推進会議について

第5次白岡市男女共同参画プラン 令和5年度報告書に基づき、市の施策や取組を中心に議論し、今後の施策の方向性について検討を行った。

(3) グループワークで出された意見

I 男女共同参画の意識づくり

1 男女共同参画及び多様性に関する意識啓発

- 広報などの充実として、ハーブティという広報紙を出している。
考えるきっかけとなるだけでなく、自分自身の気づきにつながる。
徐々に作り上げてきて、今がある。
- 多様性の尊重とは良い表現である。
ただし、LGBTQのトイレや更衣室などの利用について議論があった。理念はわかるが、現実に関自分の身近で起こった時に、なかなか受け入れられない。
- パートナシップ制度については、行政側でも、使いやすくしていく、支援していくような社会づくりに努力している。
社会は良い方向に進もうとしても、それを悪用したり、まだ課題がある。こういった会議を通じて、市民へ周知し、浸透、醸成させていく必要があるのではないか。ステップバイステップである。
- 講演会が実施できていない。
限られた予算でうまく啓発できるように検討していくこと。
Eテレと一緒に視聴してはどうか。

2 人権尊重教育の推進

- 学校教育は、教育委員会の枠があるため、道徳や特別活動で、男女共同参画の教育を行っている。その子たちが大人になったときにもこのようになっているか。
- 運動会の徒競走やクラス名簿なども男女が混ざっているものが増えているように感じる。
- 小学校の漢検のボランティアをやっているが、「くん」や「ちゃん」

ではなく、「さん」と呼ぶ。

- 現場の情報からみるようなボトムアップが非常に重要。
保健の授業で中学生は、男女別々に受けているのか。一緒によいのではないか。
埼玉県でユースケア（若い人向けの性教育）をやり始めている。小学校高学年でも関心が高い子がいる。大人がどのように受け止めて、どのように返せるかが重要。性の悩みや男女間の交際なども、よくなっていく。
- 指導する立場のかたがきちんと正しい知識を持っていることが必要。
Y o u T u b e や動画などを活用して、個人の隙間時間に観てもらうことで、先生の人権教育を行うとよいのではないか。

II ワーク・ライフ・バランスの取組

1 家庭における男女共同参画の推進

- 共働きで、男女とも忙しい。
総労働時間を減らす必要があるのではないか。
- 若いお父さんがお子さんを抱っこしている姿をよく見かける。
育児休業などを取りやすい環境になっているのではないか。
- 子育ての主は妻側、夫は少しでも手伝っていて参加しているという
ような意識があるのがよくない。お互いに主体的に行っていくべき。
- かつての中学校の教育では技術と家庭科で男女別学であったが、現
実に家庭では一緒に協力していく必要がある。女性相談にも、なぜ
男性相談がないのかといった声を伺うことがある。
- 難しい問題を家庭の中だけで解決することが難しい。相談できる環
境づくりが必要。
- 男性もDVを受けることがある。固定観念がよくない。
- 市役所で育児休業の取得促進を進めているのはよいことだが、それ
を市内企業に普及促進を図っていく必要があるのではないか。
- 育児休業は休んでいる間も申し訳ない気持ちで、戻る時とても勇
気がいる。支援体制が必要。

2 生涯を通じた健康づくり

- 講座の充実。
けん玉の健康体操を続けているが、男性の参加が少ない。75人の
メンバーのうち男性は3人しかいない。健康への関心は女性の方の
意識が高いのかもしれない。対象は60歳以上としているが、65
歳未満はいない。平均年齢は74歳となっている。

Ⅲ 一人一人が活躍できるまち

1 男女が共に働きやすい環境づくり

- 白岡市はとても活発なまちだと感じる。
職種によって差がある。研究職とか政治参加とか、女性の参加がなかなか難しいかなと感じる。
- 蓮田市商工会の起業向けのセミナーに参加した。一室で習字を教えるなどの話を聞いて、そういうのもよいと感じた。商工会が助成金を出しているところもあるようである。
- 女性の管理職というよりも、管理職そのものに魅力がなさすぎる。
- NPOやボランティアで、長く責任者として続けている女性が非常に多い。ただし、責任というよりは、活動を楽しみながら続けているようである。男性と女性の価値観の違いもあるのかもしれない。

2 政策・方針決定の場への参画推進

- 女性の社会進出がなかなか進んでいない。ヨーロッパ並みの水準に追い付いていない。
一番大切なことは、子供の頃からの意識付け、改革が重要。繰り返しの教育、意識付けが大切。
- 小学生、高校生などにこの会議に参加してもらい、女性参画を取り入れる意識付けをしたらどうか。
- 学校を中心に、60分程度の講演会を企画してはどうか。
- 自治会の女性の割合が少ない。
- 女性は生活することを考えると、なかなか社会進出がしづらい。家のことをしなくてはという生き方や考え方を取り除かなくてはいけない。どうしても家庭のことを押し付けられてしまう。
- 防災訓練の際に、参加者へ女性の立場を考える講座等してみてもどうか。
- 意識付けが、女性だからという押し付けになってはいけない。具体的には、女性にどのような能力があって活躍できるのかが問題。女性だからという形式的なことではない。

Ⅳ 誰もが安心して暮らせるまち

1 DVの根絶と被害者支援の充実

2 あらゆる暴力・ハラスメントの根絶

- いじめに関して、白岡市では指導主事と学校関係性がしっかりしており、チェック体制ができている。白岡市を見習っている他市町村もいる。

- 周り近所では、あまり聞かない。実績をみて事例があることを知った。
- 相談体制はこのままでよい。
- ポスター、リーフレット、広報等で意識付けが必要。
- 「以前より変化なし」が現状のままで良いのか、改善が必要なのか不明である。

V 計画推進の体制づくり

- 1 市民・事業者との連携
- 2 市の推進体制の充実

- 地域を巻き込んで連携、意識付けが必要
- 男性の育休率が75%である。100%にいかなくても近づけて欲しい。
- 実績報告に延べ人数が散見される。男性、女性がそれぞれ何人だったのか分からず統一がされていない。
- 市の女性管理職の割合が低い。

(4) 実施結果（総評）

今回、男女共同参画全般についての様々な意見から、課題や問題点、改善点等について点検・評価をいたしました。

- ① 多様性に関する意識啓発や人権尊重教育については、徐々に浸透しており、社会的に良い方向へ進もうとしている。
しかし、それを悪用する者もあり、課題は残っている。
これからも市民への周知と浸透、醸成をしていく必要がある。
また、小、中学校の生徒には、指導者が正しい知識を持って教育していく必要がある。

- ② 男性の育児休業率も高くなってきており、男性の育児参加が増えている。育児に関して家庭の中では、どちらも（父親・母親）主体的になり、協力していく必要がある。また、育児休業中については、勤務先の理解と支援体制が必要である。
家庭内で発生した問題について、解決が難しい場合は、男女ともに相談できる窓口も必要である。
家庭の安定を保つためには自身の健康づくりも大切である。

- ③ 女性の管理職の割合が低いのは、管理職そのものに魅力が乏しいか

らではないか。

女性の社会進出を図るためにも、子供の頃からの意識付けと、改革が必要である。ただ、女性だからという形式的なことではなく、その人の意思を尊重しながら、どのような能力があり、どのような活躍の場があるのかに着目することが重要である。

- ④安心して誰もが暮らせるために、DV被害者の相談体制を維持しつつ、あらゆる暴力等の根絶のため、広報等での意識付けが必要である。
- ⑤社会のあらゆる分野の男女共同参画を進めるため、地域を巻き込んだ連携、意識付けが必要である。